

鳥取を担うナシ新品種の育成

園芸試験場

1 背景と目的

鳥取県の梨栽培は‘二十世紀’を中心に行われてきたが、消費者の嗜好の変化にともない、市場単価が低迷してきていた。

そこで①美味しい（甘く食感がよい）②見栄えがよい（大玉、肌がきれい）③高単価が期待できる早生品種（8月収穫）④自家和合性⑤病気に強くつくりやすいことを目的とした新品種の育成を行った。

2 成果の概要

- 1) 平成元年より‘おさ二十世紀’を親として育種を開始した。約2万粒の実生から選抜・淘汰を繰り返し、早生・高糖度・自家和合性などの特徴を持った7品種を品種登録した。
- 2) 青ナシは、5品種について品種登録した。‘なつひめ’（品種登録：平成19年3月23日）は8月下旬に収穫でき、‘二十世紀’よりも甘みが強く、酸味が少ないのが特徴である。‘夏さやか’（品種登録：平成20年2月22日）は8月上旬に収穫でき、盆前に出荷が可能である。早生品種としては糖度が高く、多汁で果肉はやわらかい。その他‘えみり’、‘夏そよか’、‘涼月’がある（品種登録：平成20年2月22日）。
- 3) 赤ナシは、2品種について品種登録した。‘新甘泉’（品種登録：平成20年2月22日）は8月下旬に収穫でき、非常に糖度が高く、果汁が多い品種である。‘秋甘泉’（品種登録：平成21年3月2日）は9月中旬に収穫でき、自家和合性であることから受粉作業を省力化できる。甘さが強く、酸味は少ないのが特徴である。

3 成果の活用

平成24年12月末までに苗木約32,000本が植栽され、高接ぎを含めた植栽面積は、‘新甘泉’46.6ha、‘なつひめ’25.9ha、‘夏さやか’11.6ha、‘秋甘泉’11.1haとなっており、県内で約100ha植栽されている。平成20年から出荷も始まり、平成24年度の出荷量は‘新甘泉’133.2t、‘なつひめ’68.4tとなっている。

4 残された課題

鳥取県では平成27年度までに新品種の植栽面積を200haまで増やす計画だが、まだ半分程度しか達成できていない。今後の植栽にあたっては、省力的で成園化も早いジョイント仕立てや袋掛けが必要ない網掛け施設などと併用することで、さらに植栽面積が増えると期待されている。



ナシ新品種‘なつひめ’の着果状況



ナシ新品種‘新甘泉’の着果状況